

口頭発表 第1日

2月9日(木) 13:15 ~ 15:15



第1日 2月9日(木)

A会場

<提案のポイント>

①② 13:15～14:30

特別支援学校における授業改善プロジェクトの取組
～授業改善の仕組みを生かした「遊びの指導」の実践～

県教育庁特別支援教育課 指導主事 高田屋陽子
県立栗田支援学校 教諭 沖口 祥子
県立稲川支援学校 教諭 池部 和美

特別支援学校における各教科等合わせた指導の授業力向上を目指した秋田県の取組である。平成28年度は「遊びの指導」を取り上げ、授業づくりの基礎・基本に基づく実践の充実と、各校の指導の中心的役割を担う人材の養成を目的に取り組んだ。「遊びの指導」を「場の設定」と「教師の支援」に着目して授業をデザインし、教育専門監とも連携しながら要点について整理し、評価・改善した取組について提案する。

③ 14:45～15:15

**[文部科学省委託
小・中学校等における起業体験推進事業]**
夢おこし！ 町おこし！ アントレプレナーシップ
～「白神MOF (Make Our Future)タイム」
の実践から～

八峰町立八峰中学校 教諭 吉田 武志

八峰中学校は、八森中と峰浜中が今年度統合し、新しい学校としてスタートした。統合によりキャリア教育のフィールドが町全体に広がった。各々の学習活動の計画を生かしながら、持続可能な新たなプログラムを地域の協力のもと作成した。この取組は、地域の特性を生かし、実際に起業する体験学習が中心である。生徒たちは、ふるさとを愛し、挑戦する心、協働する心で地元で頑張ろう、地域に貢献しようとする思いを強くした。

<口頭発表の録音について>

自己学習に使用する場合であっても、録音できません。自校の記録等として録音したい場合は、世話人に申し出てください。

<口頭発表の撮影について>

自己学習に使用する場合であっても、撮影できません。自校の記録等として撮影したい場合は、世話人に申し出てください。



第1日 2月9日(木)

B会場

<提案のポイント>

① 13:15～13:45

自らどんでん遊べる子どもを育てるために
～一人一人の思いをていねいに受け止め、子
どもとともに遊びをつくる保育の在り方～

社会福祉法人いなかわ福祉会

幼保連携型認定こども園 あおぞらこども園

主幹保育教諭 沓澤香代子

自らどんでん遊べる子どもを育てるために、保育者が一人一人の思いを受け止め、子どもが自ら遊んでいる姿やそこに向かって行おうとしている姿を具体的に記録するとともに、カンファレンスにより多面的に子どもの姿を分析することで、より子どもの実態や内面理解を図った。記録をもとに、各年齢→3歳未満児・3歳以上児→全体と段階を踏んでカンファレンスすることで、保育者間で内面理解する専門性の向上を目指している。

② 14:00～14:30

ヒヤリ・ハット報告書から取り組む事故予
防(0歳～2歳)
～乳幼児の安心、安全のための環境や援助
の在り方を探る～

幼保連携型認定こども園

湊城幼稚園・ていじょう保育園

園長 湊城 聖子

主任 石井真優美

保育教諭 原田 遼一

保育教諭 鎌田 美貴

乳幼児をめぐる保育施設での死につながる重大事故を未然に防ぐことが私たちの第一の使命と考える。そこで、これまでの3年間をさかのぼり「ヒヤリ・ハット報告書」を様々な側面から分析、考察していくことによって、現状を把握した。本園独自のリスクマネジメント(・子どもたちへの援助・環境の構成・保護者との連携・職員の意識・共通理解)の在り方を見い出した。

③ 14:45～15:15

一人一人の心地よい生活と遊びの充実をめ
ざして
～0から2歳児の育ちの理解を深め、その
先に続く育ちにつなげる手立てを考える～

大潟村立大潟保育園 保育士 佐藤 純子

保育士 斉藤真優子

大潟村の特性を生かした教育環境の中で、子ども一人一人の心地よい生活と遊びの充実を目指し、保育の事例研究と、指導計画や職員研修を通じた実践と2つの柱で取り組んできた。子ども一人一人を大切にすることが園生活の安心・安定につながり、保育者には多様な役割があることに改めて気づくことができた。また、指導計画の見直し・職員研修などの課題や目的を明確にすることで同僚性が高まり、子どもの育ちや発達の理解にもつながった。



第1日 2月9日(木)

C会場

<提案のポイント>

① 13:15～13:45

生徒理解を深め、学校への適応感を高める工夫

～「アセス」(学校環境適応感尺度)の活用を通して～

北秋田市立鷹巣中学校 校長 小笠原茂人

最近の学校では、様々な心の悩みを抱えてしばしば保健室に行く子ども、コミュニケーションを苦手とし、適切な人間関係を築けない子どもが増えてきている。各校では、いじめ・悩み調査や生活アンケートを行っているが、生徒の内面や心の内を知ることは難しい。そこで、子ども理解を深め、本人が出しているSOSのサインを見抜き、経験と勘だけに頼らない効果的な支援を行うためにアセスのデータを活用している。

② 14:00～14:30

[第10回キャリア教育優良教育委員会

学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰受賞]

地域との連携を重視したキャリア教育の実践

五城目町立五城目第一中学校 教諭 佐藤 清一

職場体験学習は、キャリア教育における重要な教育活動である。この職場体験学習を一過性の活動で終わらせないためには、事前や事後の活動の充実が重要である。この点において本校では、地域おこし協力隊や町当局、地域の企業等と連携した事前の講話会や事後の成果発表会等を実施している。また、同窓会と連携した講演会や、高校の校長を講師とした進路講話会等も開催するなど、計画的・系統的にキャリア教育を推進している。

③ 14:45～15:15

[文部科学省委託

特別支援教育に関する実践研究充実事業]

主体的な社会参加につながる教育課程編成の在り方

～日々の授業と地域と関わる学習との関連を探る仕組みづくり～

県立能代支援学校 教諭 工藤 未央
教諭 工藤 智史

主体的な社会参加につながる教育課程編成と評価・改善の仕組みを構築し、本校の重点として取り組む「地域と関わる学習」を日々の授業と関連させて授業づくりを行ってきた2年間の取組である。主体的な社会参加の実現につながる教育課程編成のため、「教育課程編成の流れと取り組む時期の設定」「教育計画の様式の整備」「学習活動の組織的な配列」「授業づくりのPDCAの確立」の研究内容で、教務部と研究部が連携して取り組んだ実践研究である。



第1日 2月9日(木)

D会場

<提案のポイント>

① 13:15～13:45

※この時間の発表はありません。

② 14:00～14:30

**【国立研究開発法人科学技術振興機構主催
平成28年度サイエンス・リーダーズ・キャンプ
(東北大学大学院医工学研究科) 研修 サイエンス
・リーダーズ・キャンプ成果報告会 口頭発表】
医工学の紹介を通じた進路意識改革の取組
～「サイエンス・リーダーズ・キャンプ」
の成果の活用～**

県立由利工業高等学校 教諭 大関 健

進路決定に向けて自ら行動してほしいという願いを込め、医工学における研究開発の紹介を行った。生徒のイメージをより鮮明にさせるため、東北大学大学院医工学研究科の御協力を得てサンプルをお借りし触れさせた。授業後の生徒たちは「とてもやりがいのある開発」、「本当に開発できるのなら進んでやりたい」と感じるに至った。普段の授業への意欲を高める契機にもなり、特別講義や大学訪問等も加えながら今後も刺激を続けたい。

③ 14:45～15:15

**病弱・身体虚弱学級におけるICTを利用
した指導の成果と課題について**

大仙市立大曲南中学校 教諭 佐藤 美紀
大仙市教育委員会 主幹兼指導主事 櫻田 武

知的に遅れはないが、運動制限のある病弱・身体虚弱学級の生徒に対し、通常学級で行われている教科の授業をICTを利用して特別支援学級にしながらリアルタイムで受けられるように支援した。その結果、生徒の学習意欲と学力は向上し、病気を克服しようとする意欲も高まった。この支援を、集団参加が苦手な発達障がいがある児童生徒、保健室登校・不登校の児童生徒への効果的な初期対応として提案したい。



第1日 2月9日(木)

E会場

<提案のポイント>

① 13:15～13:45

【日教弘秋田支部研究論文受賞】

主体的な問題解決の活動を通して思考をアクティブにする理科の授業づくり

秋田大学教育文化学部附属小学校

教諭 高橋 健一

アクティブ・ラーニングを意識した授業づくりで大切にしたいことは、学習活動が表面的にアクティブになることではなく、子どもの思考がアクティブになることである。そのためには、教科の本質に迫る学びの創出が、これまで以上に求められることになる。そこで、小学校第6学年理科「学校の土地のつくりを調べよう」の実践に基づいて思考をアクティブにする要点をまとめ、理科の授業改善の手掛かりについて気付いたことを紹介する。

② 14:00～14:30

【上越教育大学大学院研修】

**中学校におけるオリジナル合唱曲の作曲過程
～想定される様々な場面の分析～**

五城目町立五城目第一中学校 教諭 清水 功一

本研究では、中学校で歌唱する様々な場面を想定し、研究者自身が作曲、あるいは編曲する。その作曲や編曲過程の記録を体系化し客観的に分析することを通して、より生徒の音楽性を高めていく作品内容となっているか検証する。そこから、オリジナル合唱曲の可能性を追究する。また、音楽教育に携わる教員が、本研究を通して新たな知見や示唆を得ることができれば幸いである。

③ 14:45～15:15

**地域を学習の場や教材とする「地域学習」
の実践
～教育課程改善の試み～**

県立栗田支援学校 教諭 武石 博行

地域を学習の場や教材とする「地域学習」を今年度から本校教育の中核として行っている。これまで各学部内で行っていた地域と関わる学習を整理・再編したのではなく、指導内容と指導方法の質を根本的に見直し、改善した取組である。一例を挙げると、作業製品を地域から受注し製作したことで生徒の意識が大きく変わり、製品の質が大幅に向上した。本発表はその実践報告と、実践から見えてきた教育課程改善への提案である。



第1日 2月9日(木)

F会場

<提案のポイント>

① 13:15～13:45

[拠点校・協力校英語授業改善プログラム]

主体的・協働的学びによるコミュニケーション能力の育成

～児童の英語による言語活動・指導者の英語授業力の向上を通して～

能代市立滝城西小学校 教諭 佐藤 弘

拠点校・協力校英語授業改善プログラム事業の指定を受け2年目。研究主題「主体的・協働的学びによるコミュニケーション能力の育成」のもと、今年度はさらに児童の英語による言語活動の増加・指導者の英語授業力の向上を目指し、授業改善や校内研修に取り組んできた。本事業を通じて、児童や指導者がどのように変容し、児童のコミュニケーション能力の育成へとつながっていったのか。授業や校内研修会の映像を交えながら紹介する。

② 14:00～14:30

[拠点校・協力校英語授業改善プログラム]

主体的に課題をとらえ、共に学び合いながら解決する生徒の育成

～「話し合い活動の場」の充実～

北秋田市立鷹巣中学校 教諭 野呂 裕子
教諭 畠山 将之

本校では、4月から即興で話す能力の育成について研究及び実践を重ねてきた。実践の柱は①学年ごとに系統立ったウォームアップの継続、②少人数指導やパフォーマンステストのためのALTの効果的な活用、③教科教室の活用を含んだ教材・教具の工夫、の3つである。これらの実践により、生徒のパフォーマンスが「どう伝えたらいいかわからない」という段階から「間違いを恐れずに自分の考えを伝えよう」という段階に向上した。

③ 14:45～15:15

[国際教養大学大学院研修]

高校生の英語コミュニケーションを促進する授業

～コミュニケーション方略：Paraphrasingに注目して～

県立秋田工業高等学校 教諭 三浦千寿子

英語でコミュニケーションする際、語彙や文法の知識だけが重要なのではなく、何とかして相手に伝えよう、相手を分かりたい、という気持ちが大切である。Communication Strategy (CS) の指導を帯活動のように取り入れ、積み重ねることで工業高校生の英語に対する意識と活動に取り組む姿勢に変化が見られた。CSの中でもparaphrasingに着目し、毎日の授業の中で実現可能な指導を提案する。



第1日 2月9日(木)

G会場

<提案のポイント>

① 13:15～13:45

なぜ多くの高校生が、“Where does he live?”
を正確に書くことができないのか? 「英語
学習に関する意識調査とその分析」

～How can we save students from becoming
English dropouts?～

県立大曲高等学校 教諭 近江 豊

今までの勤務校で、多くの高校生が中学校1年レベルの英文を正確に作成できないという事実に直面してきた。中学校の英語を高校の現場で教え直したことも一度や二度ではない。その原因はどこにあるのだろうか。この発表では、生徒アンケートを基にして英語学習を苦手とする生徒の意識とその理由・原因を探る。さらに、現状改善のための方法論についても議論したい。Whoever wants to discuss the problem in English is welcome.

② 14:00～14:30

【拠点校・協力校英語授業改善プログラム】

川小3Eプロジェクト - Everyone Enjoy
Easy -

～あきた発! 英語コミュニケーション能力育
成事業「平成28年度 拠点校・協力校英語
授業改善プログラム」を活用して～

湯沢市立川連小学校 教諭 佐藤 正徳

あきた発! 英語コミュニケーション能力育成事業「平成28年度 拠点校・協力校英語授業改善プログラム」を活用した「川小3Eプロジェクト」が、子どもたちと教師をどう変えたかを明らかにする。「英語の音声やリズムに慣れ親しみながら、進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもの姿」を目指した、具体的な取組(①環境整備【人・事・物】、②公開研究授業、③校種間連携【域内全教員の参加】)について紹介する。

③ 14:45～15:15

【拠点校・協力校英語授業改善プログラム】

生き生きと自己表現できる生徒の育成を目指
した授業づくり

～即興的なやりとりを含んだ言語活動を通し
て～

湯沢市立稲川中学校 教諭 小場 康平

「拠点校・協力校英語授業改善プログラム」の指定を受け、生徒の英語発話量の増加を主な目的として研究実践を進めてきた。具体的には、ペアやトリオによる即興的なやりとりを軸に授業を構築し、CAN-DOリストやパフォーマンステストを活用して指導と評価の一体化に努めてきた。また、国際教養大学や他校種の先生方との連携により、授業研究を一層深めてきた。「英語が好き」「もっと英語で表現したい」と思う生徒は、年度当初と比べると増加傾向にある。



第1日 2月9日(木)

H会場

<提案のポイント>

① 13:15～13:45

[いのちの教育あったかエリア事業]

自他を大切に、夢や目標の実現に向かって努力する子ども

～いのちの教育あったかエリア事業への取組～

由利本荘市立矢島中学校 教諭 佐藤 恵行

矢島地区は、保育園、小学校、中学校が1校ずつの学区である。「いのちの教育あったかエリア事業」の取組を通して、小学校、中学校、地域が連携して道徳教育の推進に取り組んだ。授業研究会や合同講演会、町中に花を飾る活動を小中連携で行ったり、動物園での動物とのふれあいや心の健康教室、クリーンアップなどの体験活動を行った。また、道徳の授業や講演会などで地域の人材を活用しながら地域と連携した活動を行った。

② 14:00～14:30

[教職員等中央研修・中堅教員研修]

生きる力を育む中学校数学科の指導の在り方について

～中央研修に学ぶカリキュラム・マネジメント～

大館市立南中学校 教諭 田山 律子

次期学習指導要領改訂のポイントに触れながら、次の時代をつくっていく子どもたちにどんな資質や能力が求められているか、研修を通して学んできたことを伝達する。それを踏まえた上で、生きる力を育む数学科の指導の在り方について、アクティブ・ラーニング「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業実践を紹介し、日々の授業におけるカリキュラム・マネジメントの必要性について提案したい。

③ 14:45～15:15

[能代市中堅教員研修会]

肯定的評価活動を通して「勉強が好きだ」という児童生徒を育てる授業づくり

～能代市中堅教員研修会の研修成果の発表～

能代市教育委員会 指導主事 矢田部瑞穂
能代市立二ツ井中学校 教諭 佐藤 有
能代市立常盤小学校 教諭 小森 哉子
能代市立崇徳小学校 教諭 櫻田 道一

能代市では今後の能代市の教育水準を維持していくために、平成26年度から中堅教員研修会を行っている。平成28年度は、諸調査質問紙より「勉強が好き」な児童生徒が好成績であることから、「学習意欲」と「成績」の相関関係に着目し研修テーマを設定した。そして、「学習意欲」を高めるための教師の在り方を、改めて中堅教員という立場で見直すことにより、「教師の授業力」を中心に授業検証や話し合いを積み重ねてきた。



第1日 2月9日(木)

会場

<提案のポイント>

① 13:15～13:45

「英語 de 数学」 The second step
～教科横断的な学習を通じた、学びをより
深める追究型学習の授業実践～

大館市立下川沿中学校 教諭 佐藤 朋子

本校では、追究型学習の授業実践を研究している。特に、追究型学習課題の設定、学び合いの活動の充実、次時につながる振り返り（リフレクション）に重点を置いて取り組んできた。その視点に加え、アクティブ・ラーニングでも重要視されている教科横断的な学習として、英語で数学の授業を行った。数学の教諭がALTとTTを組み、単元計画と本時の構想を練って授業を組み立ててきた実践例を紹介する。

② 14:00～14:30

【日教弘秋田支部研究論文入賞】
学び合うよろこび
～「(秋田東中版) 学び合いの授業」を核と
して、所属感・達成感・自己肯定感を高
める試み～

秋田市立秋田東中学校 教諭 伊藤 香

本校では「(秋田東中版) 学び合いの授業」を「三つの手だて(①よさを発見する自己・相互評価 ②教科等の特性を生かした表現・言語活動 ③次に生きる学び方の習得)」によって定義した。それを通して「ターゲットとする二つの尺度(①学校が楽しい ②自分にはよいところがある)」の向上を目指して歩んできた。様々な実践が有機的に結び付き日々の教育活動が充実していくことを願った学び合う教師集団による実践を紹介する。

③ 14:45～15:15

児童生徒の「学び合う姿」を実現する授業
づくり
～「地域」とつながる目的を教師間で共有
して取り組む教育課程の実践を通して～

県立比内支援学校 教諭 進藤 拓歩

本校では、児童生徒の自立と社会参加を目指し、「地域」を生かした教育課程を編成している。それに則ったより質の高い授業を目指して、昨年度、3つの視点(教育課程反映の視点、関連付けの視点、学び合いの視点)を設けた。今年度は特に「地域」とつながる目的を教師間で共有することに重点を置き、単元の検討会や模擬授業を行ってきた。本発表では、実践を通して確認した児童生徒の変容と、授業づくりのプロセスについて発表する。



第1日 2月9日(木)

J会場

<提案のポイント>

① 13:15～13:45

[秋田大学大学院研修]

高等学校数学科における数学的活動に関する研究

～パフォーマンス評価を取り入れた数学的モデル化の実践を通して～

県立由利高等学校 教諭 佐藤 春樹

高等学校数学科における問題点に、数学の有用性や学ぶ意義を感じない生徒の多さが挙げられる。生徒が数学の有用性や学ぶ意義を理解し、学んだ知識や技能を活用する力を高めていくために、どのように数学的活動を充実させていけばよいかを考察した。数学的モデル化、パフォーマンス評価に関する先行研究や実践事例を分析し、それを基にパフォーマンス評価を取り入れた数学的モデル化の枠組みを構築し、それに基づく実践授業を通し、この枠組みの有効性を検証した。

② 14:00～14:30

[滋賀県教員人事交流]

確かな学力の向上を目指す「授業改善 近江プラン」の作成

～秋田県における2年間の研修から両県の比較・分析を通して～

潟上市立大豊小学校 教諭 森井 貴士

2年間の研修を通して、滋賀県教員の指導力の向上と児童生徒の確かな学力の向上を目指し、秋田県と滋賀県の相違点から授業改善の方向性を見いだした。それを踏まえて、秋田県の長じていることを参考に、滋賀県の強み「多様性」を生かす「課題解決型学習」を四つの視点（授業づくり、学習集団づくり、指導技術の向上、校内研究の活性化）から推進する「授業改善 近江プラン」を作成した。その中で明らかになった成果と課題をまとめ、提案、発信する。

③ 14:45～15:15

[東北地区肢体不自由教育研究大会発表]

人や地域と関わりながら学びを広げる交流の取組

県立秋田きらり支援学校 教諭 長谷川恵美子

本校は、平成22年に開校し、地域での交流教育を模索してきた。同世代の友達との交流及び共同学習の機会を大切に、地域の直売センターや介護老人福祉施設に出かけたり、ボランティアや地域の方々を迎え入れたりすることで、交流を推進してきた。それにより、児童生徒の興味・関心が広がり、意欲が育ってきた。肢体不自由及び病弱者の特別支援学校における「人や地域と関わりながら学びを広げる交流の取組」について紹介する。